

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 08010010

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	B		
単位施策	2	「子育て」支援の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)		
事業名	子育て支援拠点事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	8 保育所		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	遊びの広場利用者数、親子教室開設数、相談業務数		関係課	#N/A		
事業目標	年間利用者数3,800人、親子教室120回、相談業務50件		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	子育てボランティア	関係例規・法令名	有 地域子育て支援拠点事業実施要綱		
			関係個別計画名	有 雄武町次世代育成支援行動計画		

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施、普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施、普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施、普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施、普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施、普及促進の努力	育児相談 あそびの広場 子育てサークル支援 特別保育事業等の積極的実施、普及促進の努力	
	事業費(千円)	3,750	750	750	750	750	
	財源内訳	3,750	750	750	750	750	
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	0						
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,301	680	621	0	0	
	財源内訳	1,301	680	621			
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	0						
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 育児相談(59件) 親子教室120回(利用者数1,832人) 開放日245日(利用者数1,928人) 関係機関との連携事業(健診、子育て講話)、特別保育事業の積極的実施・普及促進の努力 ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 育児相談(67件) 親子教室126回(利用者数1,974人) 開放日245日(利用者数1,440人) 関係機関との連携事業(健診、子育て講話)、特別保育事業の積極的実施・普及促進の努力 ※事務事業評価結果 A-継続/拡充	(実施内容等)	(実施内容等)	
	子育て支援対策事業費補助金	【評価・実績】					
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	利用者数5,000人、親子教室130回、相談業務50件	利用者数3,800人、親子教室120回、相談業務50件	利用者数3,800人、親子教室120回、相談業務50件	利用者数3,800人、親子教室120回、相談業務50件	利用者数3,800人、親子教室120回、相談業務50件
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	91%	83%	0%	0%	0%
		全体達成率	18%	35%	35%	35%	35%
	事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆				

事業名	子育て支援拠点事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係主査	八重樫 聖子

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	子育て家庭	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	年間利用者数、親子教室開催回数
【抱える課題やニーズは】	日々成長する子どもとの向き合い方がわからず、子育てに不安や戸惑いを感じる母親が増加している。共感し合える仲間との交流を求めている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	母親達が相互支援、情報交換、助言を受けられる環境により育児不安を解消できる。地域全体で子育てを支援する基盤を形成し、関係機関との連携により育児支援の充実を図る。	①	年間利用者数
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	育児不安の軽減と、孤立した子育ての解消により、親が前向きに子育てができ、子どもが健やかに育つ。	②	親子教室開催回数
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	仲良し親子教室、センター開放 育児相談、連携事業 普及促進活動	主に0~3歳児の子育て世代親子を対象に、年齢に応じた遊びと親子共に仲間づくりができる場の提供。集団遊びの体験。毎日、支援センターを開放することで、個々の生活リズムに合わせて気軽に利用できる場の提供を行った。 来所する親子との交流を通じて、育児、子どもの発達、保育所等に関する相談業務を行った。保健事業と連携することで、子育て世帯と早い段階から関わりを持ち、内容によっては関係機関へつなぎ地域で連携のとれた育児支援を行った。 ①町広報紙に子育て支援センター情報を掲載する他に、保健事業に参加し、町内すべての乳幼児、保護者に関わりを持つことで支援センターを気軽に利用できるよう存在を伝えた。②育児講座等保健係と協力することで内容の充実を図り、対象者に幅広く周知した。また、妊娠中から子育て支援サービスを知る機会となった。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	認定こども園は地域における子育て支援を行う機能を備えているものであり、当該事業は必ず実施しなければならないものである。 少子化や核家族化などにより、育児に対する不安感や負担感が増長する中、親子の遊び場や交流の場の確保、相談・援助など必要性は高い。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	保育所への入所児童の増加に伴い目標値を下回っているが、親子教室の利用数は増加しており、育児を孤立させず仲間と交流できる場所としての確保がなされていることから本事業の目的を十分達成している。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	支援センターが保育所内に設置していることで、備品、物品等の供用や保育所職員間の相互連携等、効率的に事務事業が進められている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	町内在住のすべての乳幼児、保護者を対象としており、保健事業や教育委員会等と連携し、本町の子育て支援の拠点として機能しており、公平性は保たれている。
公平/概ね公平	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	A	
	一般利用が前年を下回ったが、それ以外は、ほぼ計画どおり実施することができた。近年、乳児期からの利用を開始する親子が増え、早期からの仲間づくりができており、孤立させない子育てがなされている。横のつながりをもつことで、自ら子育てを楽しむ意識への働きかけとなり育児不安軽減ともなることから、今後も計画どおり進める必要がある。	

今後の展開方向
(Action)

継続/拡充
養育者支援として妊娠、出産、育児と学童期を含め、その時期に抱える不安を軽減するための相談支援のニーズが増大している。出産後早い時期から関わりを持つことで、切れ目のない情報提供と助言ができることから、今後は「こんにちは赤ちゃん事業」の実施による訪問支援や関係機関との連携を強化することで育児支援の更なる充実を図っていく。

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止